

安田 正

A philosophy of top business people

一流役員が実践している

仕事の哲学

はじめに

私、安田正はこれまでコンサルタントや講師として、中小企業から大手と言われる企業まで、様々な社員さん、そして経営者の方々と接してきました。

合計すると、一般社員は5万人（会社全体では55万人）、部長以上の役職者では1000人以上の方々を見てまいりました。

本著には、その中で私なりに発見したことをまとめています。

会社組織の中で出世している人、優秀、一流と言われる人にはある共通点がいくつもあることに気づいたのです。

しかも、一般社員、課長、部長、それ以上の役職者の方では、明らかに共通点
が異なっています。

たとえば、食事会の翌日のメール。

一般社員の方々は、ほとんどの人がお礼メールをしません。いたとしても10%

くらいのものです。

では、それよりも上の部課長クラスではどうでしょうか？

実はほとんど変わりません。約80%の方はメールすらしないのです。

ところが、役員の方になると、決まってメールが来ます。しかも、時間帯が朝7時なのです（その理由は、04で詳しく述べています）。

これまで多くの方々と接してきてわかったのは、優秀かどうかの差というのは、そうした紙一重の習慣にあるということです。

その積み重ねが、役員にまでなれる人と、課長や部長で終わってしまう人の差ではないかと私は思っています。

そして習慣の差を生むのは、「仕事の哲学」があるかどうかです。役員の方々は、常に意識されている「仕事の哲学」を持たれているのです。

本著では、その哲学を「平社員は……」「部長は……」「役員は……」など、比較する形で次々と紹介してまいります。

一般的にこうしたビジネス書や自己啓発セミナーなどの手法は、その多くがアメリカから輸入されたものです。それが悪いとは言いません。

しかし、アメリカと日本とは、バックグラウンドが違います。文化が完全に異なるのです。

もっと日本人に合った、実際に日本人が行なっている「成功」の秘訣があるのではないかと、それが、本著『一流役員が実践している仕事の哲学』です。

私たち日本人は、「自己実現」「アイデンティティ」などと大上段に構えなくとも、ちよつとした心構えとか習慣から、いろいろなことに気づきを得られる民族です。ほんの少し習慣を変えるだけで、何かが見えるようになり、自分を変えることができます。

その意味では、この本は「日本のビジネスパーソンへの応援歌」でもあります。今の私だからこそ、どうしても伝えたかった内容でした。

最近私がお会いしている方の中には、せっかく才能や可能性があるのに、それに気づかず人生を通り過ぎていく人、あるいは可能性を開花させることに興味がない人が少なくありません。

確かに、日本全体を見回しても、ビジネスの明るい話題はなかなか見つけづらいう状況です。「どうせ、成功するのは無理だし……」などとあきらめムードが漂っているのもわからなくはありません。

しかし、今活躍されている役員の方々は、皆さん活き活きと仕事をなさっています。そして、異口同音に「何だか夢中で仕事をしていたら、ここまで（役員）来てしまった」と、おっしゃるのです。

差は、紙一重です。

彼らが実践しているちょっとした習慣を身につけ、今の日本の中で、未来への希望の光を見つけていただけることを願っています。

安田正

はじめに

003

第1章

平社員と部長と役員の違い

01 about
メールの返信

平社員は、5分考えた挙句、あと回しにする
部長は、空いた時間にまとめて返す
役員は、3分以内に返信する

016

02 about
出社時間

平社員は、始業5分前
部長は、15分前
役員は、遅くとも1時間前には来ている

020

03 about
会食

平社員は、20時スタートが標準
部長は、早めに切り上げて19時から
役員は、きっかり18時から

024

04 about
お礼

平社員では、90%がメールすらしない
部長でも、80%の人がお礼を言わない
役員は、100%朝7時にお礼メールが来る

028

13

about
休日

平社員は、憂鬱度MAXで過ごす
部長は、憂鬱にはもう慣れた
役員は、「○曜日」という概念がない

072

12

about
おみやげ

平社員は、道すがら買う
部長は、有名ブランドの銘菓
役員は、包装紙で決める

068

11

about
手元

平社員は、オシャレを重視する
部長は、値段やブランドで選ぶ
役員は、王道を好む

064

10

about
足元

平社員は、カカトを潰しても気にしない
部長は、靴ペラを使ってサツと履く
役員は、必ずひもを結び直して履く

060

09

about
首元

平社員は、安物やファッション性の高いもの
部長は、奥さんに選んでもらっている
役員は、たいてい長いネクタイをしている

056

08

about
宴会芸

平社員は、自分の好きな歌を歌う
部長は、自分の得意な歌を歌う
役員は、皆が歌える歌を歌う

052

07

about
気配り

平社員は、コップが空になってから注ぐ
部長は、半分くらいになったら注ぐ
役員は、相手に合わせた完璧なタイミングで注ぐ

048

06

about
お酒

平社員は、好きなものを飲む
部長は、ワインのうんちくを語る
役員は、最終的に焼酎に行きつく

044

05

about
お店

平社員は、食べログで話題のお店
部長は、ミシュラン掲載のお店
役員は、「行きつけ」の5軒から選ぶ

034

三流の仕事 二流の仕事 一流の仕事

14 about 仕事とプライベート 078

- 三流は、仕事にプライベートを持ち込む
- 二流は、仕事とプライベートを明確に分ける
- 一流は、いつでも仕事の顔をしている

15 about 体調管理 084

- 三流は、体調不良で休む
- 二流は、体調不良でも休まない
- 一流は、健康オタクである

16 about 疲労回復 088

- 三流は、シャワーを浴びるだけ
- 二流は、しっかりと湯船につかる
- 一流は、朝風呂を浴びる

17 about 学問 092

- 三流は、「体育が得意でした」と言う
- 二流は、「数学が得意でした」と言う
- 一流は、「国語が得意でした」と言う

18 about 運動 096

- 三流は、3日で挫折する
- 二流は、数年で飽きる
- 一流は、数十年やり続けている

19 about 活力 100

- 三流は、偏食家である
- 二流は、美食家である
- 一流は、何でもスマートに平らげる

20 about 所作 104

- 三流は、テーブルマナーを知らない
- 二流は、二心の知識を持っている
- 一流は、自然に完璧な振る舞いができる

21 about 学習 108

- 三流は、TOEIC700点を目指す
- 二流は、ビジネス英会話に通う
- 一流は、あえて勉強しない

22 about 意識と無意識 112

- 三流は、思いつきで終わる
- 二流は、無難なことしか考えられない
- 一流は、革新的で、実現可能なアイデアをひらめくことができる

第3章

平社員で終わる人 部長止まりの人
役員まで行く人

23 about 仮説力
三流は、仮説を立てない 116
二流は、仮説を立てて満足する
一流は、「瞬で」「当たる」仮説を立てる

24 about 自意識
三流は、卑屈である 122
二流は、自分の力を過信する
一流は、運を味方につける

25 about 憧れ
三流は、誰の教えも請わない 126
二流は、優秀な人に憧れる
一流は、師を仰ぎ、師を越えようとする

26 about オーラ
三流は、オーラの意味がわからない 130
二流は、オーラを出そうと必死になる
一流は、一流のオーラを感じ取ることができ、
自らも、自然とオーラを発している

27 about 執着
三流は、欲しいものを見つけれない 134
二流は、欲しいものをあきらめる
一流は、手に入れるまで絶対にあきらめない

28 about 家庭
三流は、尻に敷かれまくっている 138
二流は、亭主関白
一流は、あえて尻に敷かれている

29 about 机
出世できない人の机は、雑然としていて汚い 144
出世している人の机は、新品のように美しい

30 about 劣等感
平社員で終わる人は、コンプレックスに潰される 148
部長止まりの人は、コンプレックスを抑制する
役員まで行く人は、コンプレックスをバネにする

31 about 趣味
平社員で終わる人には、趣味がない 152
部長止まりの人は、趣味を遊びだと捉えている
役員まで行く人は、仕事と同じくらい
趣味を極めようとする

36

about
仕事と人生

「家」が好きな人は、よくて部長止まりである
役員になる人は、電子レンジの使い方も
知らないほど「仕事」を愛している

176

35

about
伝説

伸びない人間は、過去の栄光にしがみつく
伸び続ける人間は、伝説を更新し続ける

172

34

about
世界標準

仕事ができるのに出世できない人は、歯が汚い
どんな場所でも活躍できるビジネスパーソンは、
歯が美しい

164

33

about
集中力

平社員で終わる人には、緊張感がない
部長止まりの人には、隙がある
役員まで行く人は、一時も自分に甘えない

160

32

about
モテる秘訣

平社員で終わる人は、部下からも異性からもモテない
部長止まりの人は、ちよつとモテて満足してしまう
役員まで行く人は、自分を磨き続けている

156